関市下有知
山藤　寿さん

ぎふの農業人
美濃・飛騨
2019.APRIL
Vol.12
JABANK PRESENTS Farmer's Voice in Gifu

岐阜県産 あきさかり

清流長良川からの水を引く曽代用水の恵みで 地域の新しいブランド米に

岐阜の豊かな自然の恩恵を受けて育つ農産物を伝えるシリーズの12回目は、主に中濃地域で作られ始めたコメ「あきさかり」です。福井県を発祥の地とするあきさかりは、世に出回ってまだ10年ほど。温暖化の影響もあって高温に強いコメが求められる中、多量収穫ができて品質も高い特徴に着目し、7年ほど前から作り続けている農家、山藤寿さん（54）の取り組みを紹介します。

高温に強く多量収穫できるコメ

高温に強くて多量収穫できるコメを作れないか。そんな思いから中濃地域が県内で先がけて作り始めたのが「あきさかり」です。コメどころである福井が発祥の品種で、1997年に開発されて実際に市場に出回ったのは2008年になってから。炊き上がった時の透明感と、もちもちとした甘みのある味が特徴です。

関市で祖父の代から水稲栽培をしており、幼少期から稲作の手伝いをしてきた山藤さん。高校卒業後に地元のJAに就職。厚生連での勤務を含め、20年以上JAで働いていました。退職後は兼業農家だった実家の仕事を継ぎ、専業農家としてコメ作りを続けています。

山藤さんが、あきさかりを作り始めたのは12年から。前年にJAが中濃地域であきさかりを手掛けており、JAめぐみのからの奨めもあって栽培を始めました。約30アールの水田で栽培を始めると、いきなり10アールあたり12俵もの収穫に成功。従来のコメとは違う多量収穫の出来に、「これまで数々の品種で試行錯誤してきたが、こんなことは初めて」と当時の驚きを振り返ります。

4月下旬から苗を植え始める

複数年契約で「あきさかり」を安定生産

JA職員時代にも稲作研修の指導などを行っていた山藤さん。これまでの稲作では、高温での栽培や、多量収穫を求めるとコメの品質が落ちてしまいました。そんな中、あきさかりは栽培が比較的容易で多量に収穫でき、味も確か。「何とかあきさかりを中濃のブランド米にできないか」と考えるようになりました。

そんな時、JA全農岐阜を通しておにぎりや弁当を製造する大阪の大手食品会社から「多量収穫できるコメを作れないか」との話を受け、あきさかりを作る動きが本格化。JAめぐみの管内産米「あきさかり」として同社と3年間の複数年契約を締結。複数年契約を結ぶことは生産者の安定した収入につながり、段階的に作付面積や販売数量の拡大を図れます。18年度は、50キロで300トンの生産・販売を計画しました。

地域で有効な栽培法を共有

関市の下有知で4戸のコメ農家があきさかりの栽培を始めると、徐々にエリアが広がり、現在は美濃加茂市や可児市でも栽培。昨年は西日本豪雨などの自然災害の影響を受けながらも収穫できたコメ農家もあり、中濃地域があきさかりの栽培に適している可能性を感じさせました。

大阪の大手食品会社の社員と稲刈り体験

「岐阜県でもあきさかりの栽培法を確立したい」と願う山藤さん。それでも「田植えから苗の育て方まで違い、各農家でこだわりの栽培法がある」と言います。各農家でのやり方を尊重しつつ、収穫量に偏りが出ないようにと、あきさかりを一定量収穫できる栽培法を共有できるように「暦」を作成し、JAめぐみのを通して、あきさかりを作るコメ農家に発信しています。

「毎年1年生なのが農業。年によって栽培条件が違ってくる。コメは繊細だが、一生懸命手をかければ、ちゃんと応えてくれる」と山藤さん。今後、あきさかりが地域のブランド米になるよう、山藤さんは地元の農家やJAと連携しながら、あきさかりの栽培に精力的に取り組んでいきます。

JAめぐみの
中濃営農経済センター
課長　武藤 保さん

山藤さんのようにチャレンジ精神があり、JAと一緒に農業を盛り上げようと努めてくれる農家さんは貴重な存在。実体験で得た肥料を与えるタイミングや、稲を刈る適期の情報などJAや他の農家さんと共有しようと努めてくれることで、また新しい「あきさかり」を作ってみようという農家さんが増えます。山藤さんがJA職員だった頃、稲作研究会の指導員として色んなコメの品種を試し、広げようと活動してきたことが、今に活きている。JAとしては全面的に応援していきたいと思います。

本広告に関するご意見・ご感想をお聞かせください

「JAめぐみの とれったひろば人気セレクション」を5名様にプレゼント
● 白川茶「匠」（緑茶）　● 白川茶「焙」（ほうじ茶）
● 米3種類のお試しセット（岐阜県産コシヒカリ・ハツシモ・ミルキークイーン）
● 無添加・無着色の梅干し「延年しそ漬け梅」　● 手作り味噌5種類の詰め合わせ「みそごのみ」

抽選で5名様にプレゼント present

①郵便番号・住所 ②氏名 ③電話番号④紙面に関するご意見を明記して下記の方法でお申し込みください。
【はがき】〒500-8577（住所不要）岐阜新聞社 営業局「ぎふの農業人」係
※個人情報は賞品発送において使用し、適正に管理します。※当選者の発表は、賞品の発送（翌月予定）をもってかえさせていただきます。

4/19（金）必着

耕そう、大地と地域のみらい。

JAバンク 岐阜県下JA/JA岐阜信連
JAぎふ ／ JAにしみの ／ JAいび川 ／ JAめぐみの ／ JAとうと ／ JAひがしみの ／ JAひだ
── 岐阜県下JAは農業のメインバンクです ──